

音楽－2（第2学年） 音楽の特徴などを自分なりに言葉で表す事例  
【学習活動の概要】

1 題材名 歌劇における音楽の特徴を物語の展開と関連付けて理解して、鑑賞しよう

2 題材の目標

歌劇「アイダ」に親しみ、音色、速度、旋律、強弱などが生み出す音楽の特徴を物語の展開と関連付けて理解し、総合的な芸術としての歌劇のよさや美しさを味わって聴く。

3 評価規準

【音楽への関心・意欲・態度】

・歌劇における音色、速度、旋律、強弱などが生み出す音楽の特徴に関心をもち、それらと物語の展開を関連付けて鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。

【鑑賞の能力】

・登場人物の声、管弦楽の音色や響き、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。

・「アイダ」の音楽の特徴を物語の展開と関連付けて理解して、登場人物の心情を音楽でどのように表現しているかを考え、根拠をもって批評し、歌劇のよさや美しさを味わって聴いている。

4 教材

歌劇「アイダ」（ヴェルディ作曲）を鑑賞教材とし、特に、第2幕第2場を中心的に取り上げる。この場面は、表現力豊かな管弦楽に支えられて、複数の登場人物がそれぞれの心情を歌い上げている。声種による表現の違いや魅力、独唱、重唱、合唱それぞれの表現力、登場人物の心情、歌手の演技を支える管弦楽の豊かさなどについて生徒が主体的に聴き、登場人物の心情を音楽でどのように表現しているかなどを考えて、歌劇のよさなどを味わうことに適した教材である。

5 主な学習活動

題材の展開（全4時間）

	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第1時	「交響曲第9番（終楽章）」（ベートーヴェン作曲）と歌劇「アイダ」の一部を比較しながら視聴し、歌劇が総合的な芸術であることを理解するとともに、あらすじ、登場人物を知る。	視聴した音楽の特徴について気付いたことを発表することを通じて、総合的な芸術、あらすじ、登場人物などを理解できるように配慮する。
第2時	歌劇における独唱者の声種と配役、合唱や管弦楽の役割などを理解し、合唱（司祭たち、民衆）、エジプト国王、アムネリスのいずれかに焦点を絞って聴き、音色、速度、旋律、強弱を手掛かりにしながら登場人物の心情と音楽表現との関連を考える。	生徒にとって感じ取りやすい場面を取り上げて、登場人物の心情と音楽の特徴について学級全体で意見交換をするとともに、グループで話し合いながらワークシートに記入する活動を行い、主体的な取組を促すようにする。
第3時	前時の活動を基にしながら、音楽の特徴と物語の展開との関連についてグループ及び学級全体で意見交換をするとともに、歌による表現と詩の朗読を比較するなどして、第2幕第2場を鑑賞する。	ワークシートに「自分はどのように理解したのか」などを記入する欄を設けて、自己の考えを表すことができるようにする。
第4時	第3幕と第4幕の一部を視聴し、第3時まで学習したことを含めて、アイダの音楽の特徴と物語の展開について自分なりに感じ取ったり考えたりしたことを批評文にまとめ、最後に「アイダ」のハイライトを鑑賞する。	第1～3時で学習してきたことを基に、音楽の特徴や感じ取ったり考えたりしたことを総合して批評文にまとめることができるよう配慮する。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

中学校学習指導要領第2章第5節音楽〔第2学年及び第3学年〕の2内容「B鑑賞」(1)の「音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。」、イ「音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞すること。」を踏まえ、本指導事例では、〔共通事項〕の音色、速度、旋律、強弱を知覚・感受することを支えとしながら歌劇「アイダ」の音楽の特徴を物語の展開と関連付けて理解し、そのよさなどを考えながら鑑賞をする。

また、3「指導計画の作成と内容の取扱い」2(7)の「生徒が自己のイメージや思いを伝え合ったり、他者の意図に共感したりできるようにするなどコミュニケーションを図る指導を工夫すること。」を踏まえ、学級全体やグループでの意見交換、ワークシートへの記入などを適切に取り入れることによって鑑賞の学習の充実を図る。

【言語活動の充実の工夫】

第2・3時では第2幕第2場を視聴し、ランフィス、合唱（司祭たち、民衆）、エジプト国王、アムネリスのそれぞれの心情が音楽でどのように表現されているかについて考える学習活動を、次のように行った。まず、学級全体でランフィスの歌唱を聴き、「セリフ」「思い・気持ち」「音楽の特徴」について意見交換をする。次に、合唱、エジプト国王、アムネリスのいずれかを選択し、グループに分かれてランフィスと同じように聴く。その際、「セリフ」「思い・気持ち」「音楽の特徴」の関連を友達と意見交換をしながら考えて、ワークシートに書き入れていく。右のワークシートの生徒は、「絶対にゆるせない」という心情について「憎しみを込めた力強い声で歌っている」、一方、「助けてください」という心情について「弱くて速度が遅い」「後ろのオーケストラもゆっくりなめらかな感じになった」と書いており、心情と音楽の特徴を関連付けて聴く力が育まれていることが分かる。さらに、「みんなに聴いてほしいところ（ここが聴きどころ）」の欄に書くことによって、自分なりの価値を表すことができるような力の育成を図っていく。

第3時後半では、歌と詩の朗読を比較するなどして、6人の登場人物と合唱が複雑に交錯する心情を歌うアンサンブルが展開する第2場最後の場面を鑑賞する。ここでは学級全体やグループでの学習活動を通して、自分はどのように理解したのかを明らかにするために、右のワークシートを用いた。学習1の欄は、「私は（登場人物を書く）の○○○な気持ちを、（音楽を形づくっている要素の働きを書く）で表現していたところが、（自分なりの考えを書く）だった」の文脈で書くように例示した。また、学習2の欄は、総合的な芸術における音楽の役割を意識しながら書くことによって、歌劇に対する理解が深まるようにした。

このように音楽の特徴などを意見交換やワークシートにおいて表現する言語活動を取り入れることが第4時に批評文にまとめる際の基になるとともに、主体的に鑑賞に取り組む学習を充実させる。

合唱（司祭たち、民衆）		
セリフ	思い・気持ち	音楽の特徴
司祭たち（合唱1） 祖国の敵には死を！	絶対にゆるせない。 敵を自由に許さんて ありえない。 怒りと憎しめ、	敵は村に今すぐには死な すへ生かすという強い 声で叫びたい強い声で歌 声が高い。 民衆と比べると速い。
民衆（合唱2） 不幸な人々に お恵みを！	お願いします。 助けてください、	弱くて速度が遅い、 後ろのオーケストラもゆっ くりなめらかな感じにな る。

みんなに聴いてほしいところ（ここが聴きどころ）  
司祭たちのエゴエゴと民衆の悲しい声の対比が、音の強弱、速度が速く、遅いこと、速度が遅いことから、王がラダメスの言葉をかけ入れ、民衆の助けをほしいという願いを表現するために、音が弱く、速度が遅くなる。オーケストラもゆっくりと流れように演奏されていて、弦楽器は悲しくて暗い感じの音色がする。さらに、自分たちは死にかけられているのかという不安がある時に、ラダメスの言葉に希望を感じ、心細い、弱く、悲しい音楽が、相手に響きかけるようなやさしい音楽もある。このように司祭たちと民衆の思いの違いと想像力が、歌劇の面白さを生み出している。

登場人物の思いや気持ちを音楽でどのように表現しているか  
感じ取り、理解しよう

学習1  
グループ学習を通じて自分はどのように理解したのかを書きましょう。  
例：「私は（登場人物を書く）の○○○な気持ちを、（音楽を形づくっている要素の働きを書く）で表現していたところが、（自分なりの考えを書く）だった。」

私は、司祭の「民衆を許さない」という気持ちと、今すぐには死なすへ生かすという強い声で叫びたい強い声で歌っているように強く表現していたところや、民衆の「助けてください」という気持ちと、ゆっくりと弱く低い声でなめらかに表現していたところや、物語と音楽が一体となった歌劇の面白さを感じた。

学習2  
後半の場面はオーケストラと全ての合唱とともに6人の登場人物が様々な思いや気持ちを表現しています。歌詞の内容や詩の朗読などかかわらずながら、音楽の特徴について感じ取り理解したりしたことを書きましょう。

友達が詩を朗読していたとき話の意味がよく分かるから、たいてい、歌劇の映像を見ながら聴いたら、それぞれの役の感情が伝わってきた。  
その役の感情に合うような音楽が演奏されたり、目立たない役を周りの人が少し小さい声で歌っていたりして、2人がかりで歌っていたと思う。